

令和4年 2月21日

令和3年度 学校評価結果報告書

桶川市立日出谷小学校
校長 閑野 千鶴

1 目指す学校像 「ひかる瞳 でっかい夢 やりぬく力 を育む日出谷小学校」

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	1	行事等の実施後に評価を行い、成果と課題を共有している	A	・行事实施に当たり、昨年度の反省が生かされ改善している。今年度の行事实施後においても、各主任が反省をまとめ、成果と課題を次年度に生かす取組が行われている。	・コロナ対応や教師の働き方改革をふまえつつ、保護者や地域住民からの相談・問い合わせには、今後も適切に対応していく必要がある。
	2	保護者や地域住民からの相談・問い合わせに組織的に対応している。	A	・保護者や来校者に丁寧に対応するように心がけている。また、電話や連絡帳等での問い合わせに対しては管理職への報告、連絡、相談が徹底されている。	
学習指導	3	学ぶ喜びを味わえる授業づくりをし、基礎・基本の定着を図る工夫をしている。	A	・GIGA スクール構想における一人一台端末を全ての教師が授業の中で活用している。また、児童、教師ともに学習活動を振り返り、日々授業改善に取り組んでいる。	・児童のインターネットへの興味が高まるにつれ、読書への関心が低下している。本を読むことの大切さを伝えるなど保護者への啓発をしていくことが大切である。 ・朝読書の日数や時間を増やすなど、具体的な取組を通して、中学校などとも連携したい。
	4	読書の習慣が身に付いている。	B	・児童アンケートからも他の項目より達成度が低い。家庭での読書時間についても課題であるが、読書習慣の定着に向け、校内での読書環境をより充実させ、引き続き読書活動の推進を行う。	
生徒指導・教育相談	5	元気よくあいさつや返事ができている	B	・あいさつのできる子とできない子の差が大きい。来年度以降も児童会が主体となって、あいさつ運動を展開し、あいさつへの意識を引き続き高めていく。	・2月の生活目標の取組が効果的であったのか、あいさつをする児童が増えた。高学年があいさつをすると、中、低学年もあいさつをするようになると思う。 ・コロナ禍で学校行事が減り、児童と地域の人が顔を合わせる機会が減ってしまった。今後、行事が増え、地域の人と
	6	規律ある態度で生活している。	B	・話を聞いて発表することや清掃活動への取組が課題として挙げられる。無言清掃への取組については、生徒指導委員会等で児童の主体性を高めるような効果的な改善策を考え、同一步調で指導に当たっていく。	

	7	いじめのないあたためかいクラスづくりがされ、支えあい励ましあう人間関係がつけられている。	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ調査の結果を受け、いじめられた児童の立場に立ち、学年・学級で迅速に対応している。また、すべての教育活動において全職員が丸となり、いじめを絶対に許さないという風土が確実に醸成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> のコミュニケーションが増えていくことを期待する。 いじめについては、アンケート結果だけでなく、教師が高い意識をもって児童の学校生活の様子から見て取る必要がある。
健康教育	8	運動習慣の定着と体力の向上を図る取り組みがされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても感染症防止対策を十分に行い、児童は体育朝会や体力作り、外遊びに積極的に参加して意欲的に取り組んでいる。新体力テストの結果を受けて、各学年の発達段階に応じた更なる体力向上の手立てを実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が積極的に外遊びをするようなきっかけを教師が作っていくことが重要である。 ボールを投げる力が低下しているのではないかと心配している。ボールを投げる機会を意図的に設けたり、力いっぱい投げられるような環境を整えたりすることが必要である。
	9	安全管理(災害、事故、不審者等)や救急措置等の日常的な健康管理に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検や避難訓練等を確実に実施し、災害時に備えている。また、非常時の際の防災機器の取り扱いや救命措置等に関しては適宜、全教職員で確認を行っている。 	
学習環境	10	教職員の机上は常時整理整頓されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員事故防止の観点から、教職員の机上は常に整理整頓された状態になっている。管理職が定期的に指導するだけでなく、教職員がお互いに声掛けを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境ボランティアの活躍が大変ありがたい。学校応援団にはできるだけ多くの地域、住民の方に参加していただきたい。人材確保が課題である。口コミ、回覧等で呼びかけをしていく必要がある。
	11	掲示板や学年園が計画的に活用されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ファーム担当が中心となり、環境ボランティアの方々と連携して時季に合った充実した学年園になっている。今後も継続し、各学年・学級の教育効果を高めていく。 	
教職員の資質向上	12	教職員の指導力向上に計画的・組織的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員がタブレット端末を活用した授業実践を主体的に行い、個人のスキルアップを図っていた。働き方改革をより一層推進し、時間を確保することで校務や教材研究を効率的に進められるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末やデジタル教科書の活用では、教師の使い方が重要である。ICTの活用もよいが、疑問に思うことを考える時間、手で紙に書く良さなども味わわせる活動も大切にしてほしい。
	13	教職員の服務規律の確保に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 倫理確立委員会や桶川市の組織力強化研修等を通じて、全教職員が教職員事故防止の意識を高く持っている。今年度についても、不祥事、教職員事故はゼロである。 	
家庭・地域との連携	14	学校・学年だより、HP等で保護者や地域に積極的に情報提供を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページや学校メールを効果的に活用し、行事やPTA活動、学校応援団などの取組等を多くの写真とともに積極的な情報発信・情報提供をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの内容が、家庭で話題となり家庭内のコミュニケーションの1つとなっている。今後も積極的な情報発信を継続してほしい。 地域の人が見ても活動の内容がわかるように詳しい説明を加えるなど、さらに充実させてほしい。
	15	地域の人材を積極的に教育活動に活用している。	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、学校応援団や保護者、地域の方々の協力を得て、体験的な学習の実施や学習環境の整備を行うことができた。 	

